

2023年度 第1回運営推進会議

2023年9月29日（金）

認知症対応型通所介護
渋谷区かなみの杜・渋谷
管理者 川村英詳

運営推進会議の趣旨

I. 運営推進会議の目的

- 1.事業所運営の透明性の確保
- 2.サービスの質の確保
- 3.事業所による「困り込み」の防止
- 4.地域との連携の確保

II. 地域密着型サービスの役割

- ① 本人本位の支援
- ② 継続的な支援
- ③ 地域で暮らし続けることの支援
- ④ 地域との支えあい等を理念とする地域密着型サービスは、入居者・利用者のより良い暮らしを着眼点に本人と地域との関係を断ち切らない支援

上記の役割を担うため、事業所と地域との良好な関係を築き、事業所が提供するサービスが、住民ニーズに即した価値のある地域資源として機能していく必要がある。利用者がどのような暮らしを望み、これからサービスを利用するかもしれない住民が何を期待しているのかを知らなければならない。

運営推進会議は、事業所と地域との関係をつなぐ一つ的手段であり、地域密着型サービスを「事業所と地域住民とが一緒に育てていくことを目的に行っていく。

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、2023年度第1回運営推進会議の開催は書面によるものとする。

3. 認知症対応型通所介護

● 2023年4月1日～8月31日 までの状況

新規利用者	契約終了者	在籍者
3名	0名	5名（男性2名・女性2名）

稼働率は低いものとなっている。今後は新規のご相談を積極的に受け付けることにより稼働率を上げていくことに注力する。新しく利用されている方が3名増えている。さらに稼働を上げていけるようにしていく。

感染症対策を徹底することでご利用者様の安全を確保しつつ、稼働率を上げる対策が急務である。

● 平均年齢と平均介護度

平均年齢	平均介護度
81.0歳	5.0

● 認知症高齢者日常生活自立度

自立度	I	II a	II b	III a	III b	IV	M
人数	0	0	0	1	0	2	2

I	「何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している状態」 基本的には在宅で自立した生活が可能なレベルです。
II a	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外で多少見られても、誰かが注意していれば自立できる状態」
II b	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内で見られるようになるが、誰かが注意していれば自立できる状態」
III a	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが主に日中を中心に見られ、介護を必要とする状態」
III b	判断基準「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが夜間にも見られるようになり、介護を必要とする状態」
IV	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする状態」
M	「著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする状態」

●職員体制

入職者・異動職員	退職者・異動職員	職員数
入職者=0名 異動者=0名	なし	6名 (管理者、生活相談員、介護職員2、看護師)

職員の体制は前年度から変わっていない。

●事故・苦情の発生状況

認知症対応型通所介護内での事故と苦情は発生していない。

新型コロナウイルス感染症が発生してしまった時は、タイムリーな情報の開示をしてほしいというご意見はいただいている。

●ご家族からの声など

	内容
新規利用者様のご家族様	「以前かなみの杜の認知症デイサービスを母が利用させていただいていました。今回は自分の兄で、お世話になっていた母の息子になります。母の時にとてもよくして頂いていたので、またお世話になりたいと思いました。よろしく願いいたします。」